

職員が聞いたつぶやき

わたしたちが地域のいろいろな方のお話を聞かせていただく中で、聞こえてきた「つぶやき」をご紹介します。「つぶやき」は、どうにかしたい、こうなったらいいなどの想いの現れ。地域をよくしていくための芽のようなものと思います。簡単に変えていけないものではないけれど、少しでも皆さんの幸せにつながる方法はないか、わたしたちも一緒に考えさせていただきたいと思っています。

古いものを大切にしたい。

地区の人数が減ったなあ…。

ここの素晴らしい歴史をもっと知ってもらいたい。

空き家が増えた…。

地区のみんなと、仲良く楽しく暮らしたい。

あなたの
お力貸して
ください！

このかわら版は、皆さんからお聞きした情報をもとに作っています。賀美石にこんな素晴らしいものがある、がんばっている人がいる、きれいな景色があるなど、情報がございましたら、ぜひお寄せください。

また、かわら版の作成に協力してくださる方も大歓迎です。

そのほか、地域をよくしていくためのアイデアやご提案をお持ちの方もどうぞご連絡ください。

連絡先：協働のまちづくり推進課（担当 大河原）

TEL0229-63-3215 FAX0229-63-2037

編集後記

賀美石かわら版も第4号を発行することができました。取材に快く応じてくださった皆さん、ありがとうございました。

今回の取材を通じて、地区の歴史や古いもの、それにまつわる思い出を大切にしている姿を見ることができました。特に、そういう意思を女性や子どもたちの活動から感じることができたことは大きいと思います。簡単に捨てることのできない大切なものを、次世代へどう渡していくか。それは今後考えなければならない課題のひとつです。

賀美石地区を訪れるたび、あたたかい交流や歴史の香りに触れ、素晴らしい地区だとの思いを新たにします。同時に、わたしたちがまだまだ賀美石地区の素晴らしい宝を掘り出せていないこと、皆さんの想いに寄り添えていないことも実感します。もっと皆さんの声を拾い上げるため、わたしたちに何ができるのか。考えながら、一歩ずつ進んでいきたいと思っています。この土地に暮らすことが嬉しい、楽しいときもあるでしょう。時には不安や悩みを感じることも、きっとあると思います。皆さんのいろんな想いを、ぜひ聞かせてください。

ヤクバ職員が見て、聞いて、教わった賀美石。

賀美石かわら版 第4号

発行：加美町協働のまちづくり推進課

発行日：平成30年2月1日

連絡先：〒981-4292

加美町字西田三番5番地

TEL：0229-63-3215

FAX：0229-63-2037

E-mail：kyodo-matidukuri

@town.kami.miyagi.jp



おいしいおにぎりと豚汁をどうぞ。

平成29年11月3日、賀美石地区公民館を会場に「賀美石地区秋祭り」が開催されました。

当日は雲ひとつない秋晴れ。会場にはたくさんの方が集まっていました。普段の駐車場に加えて、臨時駐車場となったグラウンドもいっぱいになるほど。地区の方々がどれだけ楽しみにしている行事かわかります。

メイン会場の体育館には、生け花や手芸品など、色とりどりの展示品が並び、幼稚園からお年寄りまで幅広い世代のステージ発表で華やいでいました。演目も大正琴、フラダンス、民謡とさまざま。賀美石小学校では全校児童が参加し、1・2年生は花笠音頭、3・4年生は大黒舞、5年生はよさこいソーラン、6年生は鳥屋ヶ崎獅子舞と、かわるがわるステージを彩りました。

小学生の活躍はそれだけではありません。会場では豚汁やおにぎりが無料で振る舞われますが、その配布のお手伝いも行っていました。訪れた人たちも、かわいいおもてなしにっこり。

この秋祭りで素晴らしいと思うのは、さまざまな世代の交流があることです。お母さま方が小学生に「具を先によそってごらん。」などと声をかけながら豚汁をよそう。そんなあたたかいふれあいが、あちこちで見られました。幼稚園からお年寄りまで、ひとつのイベントを成功させるために力を合わせ、声をかけ合ったり、笑いあったり。

帰り際、心がぼかぼかしていたのは、おいしい豚汁と、みなさんの笑顔のおかげだな、と思いました。



華やかなステージ！

賀美石婦人会着物リメイク教室

8月21日、賀美石地区婦人会の着物リメイク教室を見学させていただきました。

参加者は8名。三浦会長を中心に、持ち寄った着物を広げ、どうリメイクしようか相談し合いながら、わきあいあいと作業をすすめていました。それぞれの着物の柄や生地個性を生かしつつ、新しい姿に生まれ変わるさまは、見ていただけでもわくわくするものでした。

リメイクをしながら、着物にまつわる思い出話もほろりとおぼれます。「この着物は、早くに亡くなったおばあさんのもの。おじいさんがずっと大切

に保管していたの…」そう話してくださった方も。リメイクはただの衣服のリサイクルではなく、その着物が持つ思い出をもよみがえらせるのだなと思いました。もしかしたら、不要のものとして捨てられるかもしれない着物。そこに新しい息吹を吹き込む皆さんの活動は、素晴らしいです。

皆さんが丹精込めて完成させたりリメイク品は、賀美石地区秋祭りで展示されました。どれも着物の良さを活かしたモダンな仕上がり。通りかかる人々の目を楽しませていたことは言うまでもありません。賀美石婦人会の皆さん、ありがとうございました。

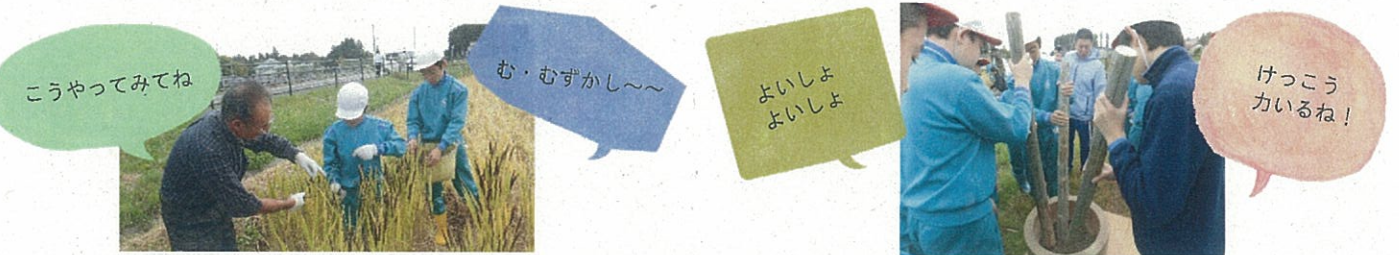


賀美石小学校

古代米 収穫体験

11月1日、賀美石小学校の敷地内にある水田で6年生17名が古代米の収穫体験を行いました。この活動は「古代都市賀美石を考える会」が企画したもの。この会は、賀美石の誇る文化遺産、国指定史跡「東山官衙遺跡」をはじめとした遺跡群の歴史的価値を発信しています。

今回は、少しでも歴史に触れてほしいとの思いから、刈り取りはなんと！黒曜石の石器を使って行われました。会員さんから教わりながら、一生懸命稲穂を刈る子どもたち。徐々にコツを覚え、40分ほどで刈り取り終了。さらに脱穀も機械ではなく、臼を使って行われました。



収穫の指導をした会員の渡邊さんは「昔は食べるためにとても苦労した。その大変さを子どもたちに感じてもらいたい。」と想いを語っていました。収穫された古代米は、後日家庭科の授業で試食するとのことで、「早くおにぎりにして食べたい!」との声も。子どもたちにとって、古代の暮らしを肌で感じる良い体験になったようです。

2月6日(火)9:30~やくらい文化センターで、古代都市賀美石を考える会主催の講演会が開催されます。講演前には、賀美石小児童による歴史学習の発表も。(問い合わせ: TEL 090-1068-9835 事務局 渡邊秀一まで)

昼食会

孫 沢

~孫沢地区の2つのイベントに参加させていただきました~

収穫祭

9月3日は昼食会。孫沢では毎年、地区主催のパークゴルフ大会後に昼食会をしているとのこと。参加者は、今回初めてという20代男性をはじめ、幅広い世代の男女14名。皆さんの孫育て奮闘記や、嫁いできた当初の思い出話に笑いが絶えませんでした。

集会所の壁には、孫沢のさかんな活動が伺える写真がたくさん。数々の受賞歴を誇るスポーツ大会、お母さん方の活躍が光る花いっぱい運動、地区集会所の建設や清掃活動…。身の回りの課題を自分たちで解決しながら、交流を通してまとまっている孫沢地区の姿が見て取れました。

11月5日は収穫祭。当日朝6時から設営した手作りのステージには、地区の皆さんが主役になって登場します。それぞれの家庭から持ち寄られた米や野菜を使って振る舞われるごちそうの数々。このお祭りは、地区の皆さんで作る皆さんのお祭りなんだと実感しました。

参加された方からは「毎年楽しみにしている」「一人暮らしなので、こうやってみんなと話せるのは嬉しい」という声も。収穫祭は、地域の皆さんをつなぐ大切な行事なんですね◎

収穫祭には今回で2回目の参加でしたが、心から楽しませていただきました。



「孫沢の皆さん、どうもありがとうございました。」

米泉ミニデイ

12月8日、米泉集会所で行われたミニデイに参加させていただきました。昨年も米泉ミニデイに参加させていただきましたが、中にはこちらの顔と名前、それからこのかわら版のことを覚えていてくださっていた方もいて、とても嬉しかったです♪

まずは、チーム対抗の伝言ゲームを行いました。米泉に関する言葉を入れた少し難しいお題でしたが、皆さんドキドキ・ワクワクしながら参加してくれたようです。答え合わせでは、各チームの面白い回答に大盛り上がり！お題に関する思い出話にも花が咲きました。

ゲームで盛り上がった後は、子どもの頃の思い出を語っていただきました。お正月は、しめ縄作りが大変だったそうですが、年越しのごちそう(お頭付の魚・牡蠣・なまこ)が何より楽しみだったとのこと。また、昔は、勉強はできず家の手伝いをしていたこと、おやつには竹の皮に味噌や梅をはさんで吸っていたという話も聞きました。最後に、皆さんに「あなたの自慢」をお聞きしました。足が速い、畑仕事が好き、歌が好き、もの作りが好き…など楽しそうに話す笑顔が印象的でした。

皆さんのにぎやかな会話や笑い声に、こちらも元気がもらえるミニデイでした。米泉の皆さんありがとうございました。



盛り上がった伝言ゲーム



どのチームが一番かな?



思い出話に笑顔の花が咲きました